

バリ島の伝統的住居集落の変容に関する考察

－デンパサール・サヌール地区を中心に－

日大生産工（学部） ○古田 莉香子 日大生産工 山岸 輝樹

日大生産工（非常勤） 布野 修司 日大生産工 広田 直行

1 背景・目的

バリ島は、「最後の楽園」と言われ、バリ・ヒンドゥー文化を保持する島として、国内外から多くの観光客を集めてきた。建築計画、集落計画、都市計画の分野においても、バリ島の住居集落の構成原理に関する関心は高くこれまでも様々な研究がなされてきている。

一方で、バリ島全体の変容は大きい。観光地化を推し進める政策や、地域開発の展開によって、急激に観光地化された集落と、かつての観光地が衰退した集落がある。

本論文は、デンパサール・サヌール地区をとりあげ、バリ島の伝統的住居集落の変容の実態を明らかにするとともに、その居住システムの持続維持手法について考察することを、目的とする。

2 方法

本研究は、臨地調査を基本とする。観光地化の進む地域での、集落のありかたについて、バリ島、サヌール南地区を調査対象とし、研究を行う。

調査に先立ち、バリ島全体およびサヌール地区についての基礎的情報（文献・史料調査・絵図・地図史料・都市計画関連報告書・史料等）を収集整理したうえで、ベースマップを作成する。各種施設の分布図を作成するとともに、典型的街区を選定し、詳細に図面化する。

調査は、現地での臨地調査および、現地日本人在住者にヒヤリングを行い、調査結果より得

られたデータから、インドネシア・バリ島における住居システムの実態を把握し、分析、考察する。図1は対象地を示す。



図1 バリ島地図

3 集落パターン・住居構成

バリ・ヒンドゥーにおいて、住居、集落の構成には宇宙の秩序が一貫して存在し、バリ島、集落、屋敷地、建物、住居、ディテールといった各レベルに宇宙のマクロ・コスモスと身体のマクロ・コスモスの貫く秩序が存在する、とされる^{※1}。

宇宙は天・人・地の三つに分けて考えられている。それに相応して身体は頭、胴体、足の三つに分けられる。宇宙の三層構造に対応して、バリ島全体も山、平野、海の三つに分けて考えられる。個々の集落も同様に三つに分けて考えられている。またすべての村には必ずプラ・プセ（起源の寺）、プラ・デサ（村の寺）、プラ・ダレム（死の寺）という三つの寺が一组となって配置されるのが原則であり、これらをまとめてカヤンガン・ティガと呼ぶ。（図2 三層構造参照）

A Study on the Transformation of the Traditional Dwelling Village of Bali
－ Focusing on Denpasar Sanur district －

Rikako FURUTA, Teruki YAMAGISHI, Syuji FUNO and Naoyuki HIROTA

住居の配置もまたバリ・ヒンドゥーの宇宙観が投影されており、それに基づくオリエンテーションの規則により構成されている^{※2}。まず、太陽の運行に関するもので、日の出の方向を正（生）、日の入りの方向を負（死）とするオリエンテーション感覚がある。これにより、未来・現在・過去に対応し、東西を三つに区分する。もう一方は、山の方角を聖、海の方角を悪としバリの自然地形から、南北軸を三つに区分する。この二つを重ね合わせたものが、住居構成、または空間のヒエラルキーの基礎となる。（図3 空間のヒエラルキー参照）

屋敷地の主な構成要素は就寝棟、居間棟、厨房棟、祠の4つである。空間のヒエラルキーより、北東の角が最も神聖な位置となるため、そこに祠が設置される。反対に、南西の角が最も世俗的な位置となるため、そこに屋敷地の門が設けられる。住居形式は分棟形式で木造、平屋建て、屋根形式は寄棟の瓦屋根がバリの伝統的様式である。住居プランのバリエーションはさまざまであり、家族構成、敷地規模によっても変わってくる^{※3}。また、増改築等の変化によっても違いは見られる。（図5 住居プラン例参照）

また各部は、身体寸法に基づいて構成される。身体各部が基本的な単位として用いられ、建物の各部ディテール寸法を決定する際に使われる^{※4}。

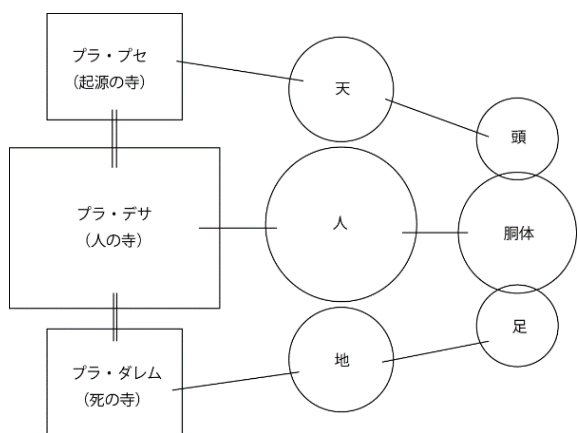


図2 三層構造

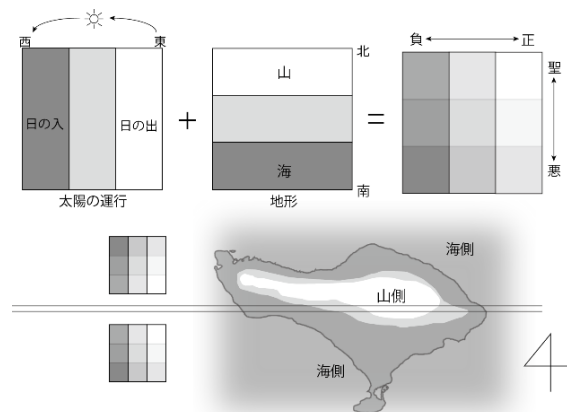


図3 空間のヒエラルキー

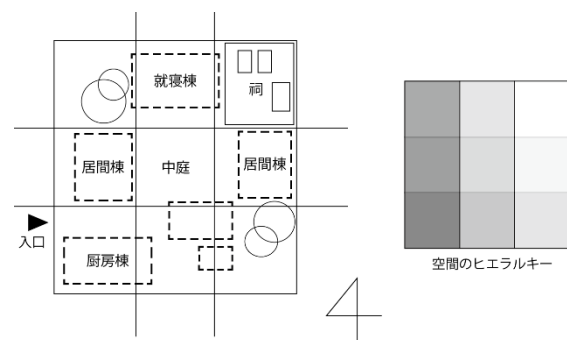


図4 伝統的住居プラン

4 デンパサール・サヌール地区の住居集落の変容

調査地区（南デンパサール区・デササヌール・バンジャールプカンドレム）は東西に伸びており、東側に海岸（サヌールビーチ）、西側に田畑が広がり、中央に幹線道路が通る住居集落である。その中でも、とくに住居が密集する南サヌール地区の323件を調査対象とする。（図5 調査対象地区ベースマップ参照）

全調査件数（323件）のうち、住居は約62%（201戸）であり、半数以上を住居が占めている。そのうちバリの伝統的住居は6件あり、全体のわずか3%でしかない。（表1参照）住居のほとんどが増改築または新築され、現代に多くみられる様式へと変化している。

増改築は垂直方向にも行われる。全調査件数のうち231件、およそ72%は平屋であるが、23%は2階または3階建てである。（表2参照）新しい住居のほとんどが2階建て以上であり、建設中のものも、すべて2階建て以上である。

建築構造は、半数以上のおよそ66%（213戸）

がRC構造である。(表3参照)

また、およそ半数の50% (162戸) が屋敷地内に祠を保有している。屋敷地内に祠の確認をできた住居のうち、およそ8% (13戸) は2階屋上に祠を設けている。(表4参照) 2階屋上に祠がある場合、ほとんどが既存の建物に増築している場合であり、敷地面積が狭いためである。屋敷地内の北東の角に祠を確認できるものもあり、かつては地区全体が伝統的様式のバリ住居で構成されていたことが推測できる。このことから、祠は、現在もバリ・ヒンドゥー文化の象徴であることを確認できた。また個人保有だけでなく、ショップハウス等では共同で祠を保有しているものもある。

屋根形式においては、およそ66%が寄棟の瓦屋根であり、オレンジ色が特徴的である。住宅の増改築等により、屋根形式、材質も変化してきている。

表4 屋敷祠保有数

屋敷祠	件数	割合
あり	162	50.0%
内、2階にあり	13/162	8.0%

表1 建築用途・類型

用途	件数	割合
住居	201	62.2%
店	37	11.5%
店舗兼住居	14	4.3%
集合住宅	9	2.8%
ショップハウス	7	2.2%
ホテル	5	1.5%
オフィス	2	0.6%
空き家	6	1.9%
その他	27	8.4%
伝統的住居	6/201	3.0%

表2 階数

階数	件数	割合
1階	231	71.5%
2階	69	21.4%
3階	7	2.2%

表3 構造

構造	件数	割合
RC	213	66.0%
木造	59	18.3%
その他	32	9.9%



図5 調査対象地区ベースマップ

5 考察・まとめ

バリ島は、イスラームが支配的なインドネシアにあり、ヒンドゥー教を維持する極めてユニークな地域である。しかし、近代化、グローバリゼーションの波が押し寄せるなかで大きく変容しつつある。調査対象としたサヌール地区は、かつてはヨーロッパ人画家が一時滞在した漁村であったが、戦後、リゾート地区として開発された地区である。その後クタ・ビーチ、さらにはヌサ・ドゥア地区が開発され観光客は近年むしろ減少しつつある。

本稿で明らかにしたことを以下にまとめる。

(1) 図5より、地区の東側は海に面してホテルが立地しているとともに、店舗が多く立ち並んでいる。その店舗のほとんどが飲食店である。サヌール地区にあるホテルは、中、高級客層向けのホテルが多いため、観光客は食事の際、近隣にある比較的安価な飲食店で食事をする。それにより、大衆向けのレストランやカフェ、バーが多くみられる。それに対して、地区の西側には、多く住居が集まっている。さらに西側は田畑が残っている。これはかつての集落構造を残していると考えられる。

(2) 地区の一般的居住地に伝統的様式の住居は少ない。伝統的住居の多くは増改築され、建て替えられている。過半数は平屋であるが、23%は2階または、3階建てである。新しい住居のほとんどが、2階建て以上である。建築構造は半数以上がRC構造である。

(3) 北東に屋敷神を祀る祠をもつ住居が少なくない。住居が建て替えられていても、敷地に余裕がある場合、祠の位置は変わらない。このことから、伝統的住居の名残が今に受け継がれていることがうかがえる。敷地が狭い場合は2階に祠が設けられる。また地区内にあるヒンドゥー寺院では、古来の祭祀が行われている。ヒンドゥーの生活様式や習慣などはいまだたえず受け継がれており、毎日どこでもその伝統文化にふれることができる。

伝統的住居集落の変容の実態について以上のような知見が得られたが、変容のプロセス、その要因、メカニズムについてはより調査、分析が必要であり、今後の課題とする。

〔参考文献〕

- 1) 布野修司 『インドネシアにおける住居環境の変容とその整備手法に関する研究—ハウジング・システムに関する方法論的考察—』 (1987年) p.230-267
- 2) 布野修司 『地域の生態系に基づく住居システムに関する研究(Ⅱ)—東南アジアにおける伝統的住宅生産技術と自助 (SELF-HELP), 相互扶助 (MUTUALAID) によるロー・コスト・ハウジング—』 (1991,6)
- 3) 布野修司 「住まいの夢と夢の住まい」 朝日選書 (1997,10) p.216-233
- 4) 布野修司 「世界住居誌」 昭和堂(2005,12)
- 5) ロクサーナ・ウォータソン著 布野修司監訳 「生きている住まい—アジア建築人類学—」 学芸出版社 (1997,3)

〔注〕

- ※1 参考文献2) p.73 3.バリの住居システムとコスモロジー
- ※2 参考文献2) p.75 (2) 空間のヒエラルキー：オリエンテーションと聖なる場所
参考文献3) p.231 オリエンテーション
- ※3 参考文献1) p.258 住居の構成
参考文献4) p.110-111 バリ・マジヤパイトの家
- ※4 参考文献1) p.258-265 バリの人体寸法と部材寸法